

呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

① 該当者	2023年 11月 2日～2024年 3月 6日の期間に当院にて乳がんと診断され、放射線治療を受けた患者さん			
② 研究課題名	乳房胸壁照射におけるボーク位置誤差が照射線量に及ぼす影響と許容値について			
③ 実施予定期間	2024年 5月 ～ 2024年 10月			
④ 実施機関	国立病院機構呉医療センター			
⑤ 研究代表者	氏名	谷本 祐樹	所属	中央放射線センター
⑥ 当院の研究責任者	氏名	谷本 祐樹	所属	呉医療センター 中央放射線センター
⑦ 使用する試料	収集する診療情報は下記の通りです。 放射線治療照射線量分布, CT画像, 年齢, 性別 ※上記診療情報は、研究結果の公表後1年間まで厳重に保管され、その後適切な方法で破棄されます。診療情報は当院の研究担当者が情報を取り扱い適切に保管します。			
⑧ 目的	放射線治療装置 Tomotherapy の特徴であるスリッピング機構は、連続回転と寝台移動により広範囲に対し、つなぎ目のない照射を行うことが可能であり、広範囲に対し一連での照射を可能にしている。ボークを使用した際、その設置位置は必ずしも計画CTと一致せず、どの程度の設置位置誤差が存在し、かつ照射線量に影響を及ぼすか、我々の知る限り明らかになっていない。そこで本研究では、ボーク位置が照射線量に及ぼす影響と、照合用CTのスライス厚による検出位置誤差からボーク位置誤差の許容値について明らかにすることを目的とする。			
⑨ 方法	<p>対象症例は、乳房胸壁+鎖骨上窩に対し照射した5例。1)線量検証:乳房胸壁+鎖骨上窩症例のDQA照射プランをファントム(Gammex)の上部にボークを乗せたもので作成し、胸壁と鎖骨上窩の繋ぎ目付近で点線量検証、線量分布検証を行う。位置誤差が発生することで検証結果及ぼす影響を明らかにする。2)1)と同じ条件においてスライス厚1.0mmで撮影し照合後、奥行、高さ、左右方向に移動させスライス厚1.0mm, 2.0mm, 3.0mmでそれぞれ照合し適正なスライス厚を明らかにする。</p> <p>3)ボーク位置許容値:1)と2)の誤差よりボークの位置誤差許容値を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボーク:手術後の乳房は除去されている場合、胸壁厚が薄くなり放射線照射時高い線量を目標である胸壁に照射することができないため脂肪組織を模したボークを皮膚に置き照射する場合があります・ファントム:放射線量を計測するための模型・DQA:放射線治療計画装置で計算された線量は、照射装置の経年劣化や装置のスペックの違いから、必ずしも同じ線量が照射できない。しかし、事故防止のためファントムに仮に照射し、Chamberと呼ばれる電離箱とフィルムを使用して照射装置からの線量を測定し、計画装置と照射装置の線量を比較する。それをそれぞれ点線量評価と線量分布検証と呼び、まとめてDQAと呼ぶ。・CT(Computed Tomography):コンピュータ断層撮影			
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2024年 5月 2日		
	院長承認日	2024年 5月 2日		

呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

⑪公表	個人情報保護の観点で、研究成果を学会や医学論文などに発表することがあります。		
⑫プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報は一切使用しません。		
⑬知的財産権	将来、この研究の成果が得られ、知的財産権が生じる可能性もありますが、その権利は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。		
⑭利益相反	本研究では、利害の衝突は一切生じません。		
⑮問い合わせ	連絡先	内線 7030	電話 0823-22-3111(代表)
	国立病院機構呉医療センター 中央放射線センター		

呉医療センター院長